

【焦ったこと、恥ずかしかったこと】

- 1) 関空へ向け出発した直後、名神高速の大渋滞につかまり車が動かなくなってしまう事。
- 2) 関空へ戻って来た時、座席が1番だったので比較的先頭で急いで降りて行ったが途中で、後の人から“スリッパでいいんですか”と言われ、靴はまだ飛行機の中へ置いたままと気づき、人波をかき分けて取りに行ったのが恥ずかしかった。

※ 今回の旅行では多数の知らなかった人達と仲良しになれましたが、結構中国語を知らない人が旅行していて驚きました。というより、習ったりしている人がいなかったです。

私の妻は中国残留孤児の方や、その子供、孫など中国語しか話せない人と知り合ったのをキッカに NHK 講座を始め、その影響で私も中国語を始めました。(妻の方が上手です)

福田さんから数枚の写真の提供があったのですが編集の都合上勝手ながら割愛させていただきました。悪しからずご了承ください。 編集者



その妻をぜひあの中国の大地に立たせてあげたかったのがやっとなかったです。今回はとても短い旅でしたが「充実した3日間」を喜んでいます。

それと、もうひとつうれしい事があります。それはとても留守番は無理と思っていた我家の愛犬ナナがちゃんと出来たことです。ナナはもともと放浪していたのを保護した犬なので「捨てられる」というトラウマを抱いている様に思いますが、息子と2人で何とか頑張った(?) ようです。

それ以後、カミナリが鳴ったりすると、私のフトンの上で寝るようになってしまいましたがあの3日間息子の部屋で一緒に寝ていたのが原因の様です。とにかく短い日程なら大丈夫そうなので今度は地下鉄などに乗っての自由遊覧旅行にしようとおもっています。

(今回はちょっと贅沢旅行でしたので42万円かかりました)

今回は福田さんと西川さんから投稿をいただきました。引き続きその他の皆さんからの寄稿をお待ちしています。新会員の方もふるって書いてください。

中国語を学ぶ会
平成19年6月
第28号

你好

編集・発行連絡先
神山
電話 33-3177
Fax 32-5594

私たちの「中国語を学ぶ会」は35歳となりました

1972年、時の田中角栄首相が訪中し、日中間の国交が回復した記念すべき年に私たちの「中国語を学ぶ会」が発足しました。

当時、中国語はまだマイナーな存在でしたが先輩たちのご努力によって内容も年々充実し、成長を続け、今年は35歳を迎えることができました。

その頃は中国入国のビザの発給が難しく、その上、外国人が観光できる場所が限定されていたり、写真撮影が禁止されたり不自由な旅行しかできませんでした。

最近では近くて比較的手軽に行ける中国

旅行が盛んとなり、中国への関心が高まり平塚市内にも中国語教室が林立しております。

そのため、当会としても会員の確保が容易でなくなり損益分岐点すれすれの低空飛行での運営を余儀なくされております。

中山会長のご尽力によって学習内容の改善や再三にわたる会員募集により今年も多数の新朋友が入会いたしました。

これからも協力し合って楽しく、しかも内容の充実した学習会になるようにして行こうではありませんか。

恒例の餃子の会が盛大に

5月20日の日曜日、中央公民館で毎年恒例の新人歓迎と総会を兼ねた「餃子の会」が多数の参加者でにぎやかに行われました。

皮を作っても丸くならず四苦八苦、どうにか覚えかけた技術も又来年までには忘却の彼方へ。

はじめて食べる大根の餡の餃子など、苦勞して作った餃子をおいしくお腹いっぱいいただきました。

数人の中国朋友も参加し生の中国語会話を楽しんだ人もいたようでした。



今春新しく入られた同学の皆さん、もうだいぶ慣れましたか。新しいことに挑戦しているわけですから多少のストレスを感じるのは仕方ないですね。

中国語は最初が肝心です。いま習っているところかと思いますがピンインをしっかり身に付けてください。そして四声を記号通りに発音してください。これがあとあとまで影響してきますから、ゆめゆめおろそかにしないように。この二つさえ出来れば、あとは辞書をひけば言葉の意味はわかります。

辞書といえばあなたはどんな辞書を買いましたか。小さすぎる(値段も安い)ものは学習が進むにしたがって物足りなくなってしまう。少々高くても大きめで用例の多いものを選ぶとよいでしょう。電子辞書はとても便利ですが値段が高いのが欠点です。

それにせつかく始めたのだから根気よく学習を続けることが大切です。

これらはすべて私個人の思い込みですがとにかく続けることが一番です。

火車が汽車で、汽車が自動車（乗用車）！

星期二班 西川誠二

母が娘で、女房が老婆！？ いったい何の事でしょうか！？

上は中国語→日本語、 下はその逆です。

中国語と日本語で違った意味をもっている単語・・・日中同形意義語 です。

中国語がわからない時、筆談に頼り、危機を脱する事がありますが、全く違った意味を持つ単語の一例です。

他にも、あると思いますが、面白い例を集めてみました。

大体、同じ意味のものが多いので、逆に、これらを覚えてしまえば、後は筆談でも可能という事になります。

楽しみながら覚えてみては如何でしょうか。又、他にも面白い単語を紹介してください。

中国語	日本語訳	中国語	日本語訳
1. gào su 告诉	知らせる	16. dǎ suàn 打算	意図、考え
2. shǒu zhǐ 手紙	トイレットペーパー	17. yá 牙	歯
3. xīn wén 新闻	報道	18. dà jiā 大家	みなさん
4. má què 麻雀	すずめ	19. miǎn qiǎng 勉強	強制する
5. shāng liang 商量	相談する	20. kàn bìng 看病	診察
6. qì chē 汽车	自動車	21. kè qì 客气	遠慮する
7. ài rén 爱人	夫又は妻	22. pián yi 便宜	安い
8. shǒu jī 手机	携帯電話	23. jīng lǐ 经理	社長
9. zuò yè 作业	宿題	24. gū niang 姑娘	女の子
10. gōng zuò 工作	仕事	25. niáng 娘	母、お母さん
11. jì 记	覚える	26. zhù yuàn 住院	入院
12. nán kàn 难看	醜い	27. zhàng fu 丈夫	夫
13. zǒu 走	歩く	28. zhū 猪	ぶた
14. pǎo 跑	走る	29. dàī fu 大夫	医者
15. rén jiān 人間	世間	30. xiě 写	書く

2度目の北京旅行

星期二 福田慎二

黄金周 (huáng jīn zhōu) のどまん中に妻と二人で北京へ行って来ました。

5月3日～5日の2泊3日という短いツアー旅行でしたが前回(03年12月)に星期二班の仲間5人と行った北京自由旅行(3泊4日)とはまたひと味違った充実した旅でした。日本→中国どこへ行っても大混雑(観光地は特に)で、書く事もいっぱいありすぎて書き切れませんが、で特長をまとめてみました。

[旅行の中味]

5/3

10:00 関西空港発(朝5:30出発)

12:30 北京空港着

景山公園→胡同めぐり(オプション)→四川料理→王府井散策(夜)(久しぶりに手をつないで歩きました)

5/4

7:30 ホテル出発(クラウンプラザベイジン)→天安門広場→故宮→(故宮みやげ店)→やむ茶料理→長城(八达岭)→(お茶屋さん)→北京烤鸭料理(約26000歩歩きました)

5/5

8:00. ホテル出発
天壇公園→北京空港 13:55 発
関西空港 17:45 着→家:20時すぎ着(前回みたいに北京空港でもめませんでした)
往復機内食(2回)
朝 ホテルバイキング(2回)

(今回良かったこと)

1) 胡同めぐりをユックリできたこと。その中でも元考古学者という老夫婦のお宅(四合房: sì hé fáng)でお話できたこと。

2) 長城(八达岭)の女坂を登れたこと。

3) 長城で物売りのおばさんにハンカチ10枚と野球帽子3個100元と言うのをことわって帽子1個10元で買えたこと。(北京オリンピックのマーク入りで記念にできた)

4) 王府井を夜、銀ブラみたいに歩けたこと。

5) オリンピック予定の建築中の建物を(外から)見られたこと。特にメインのすずめの巣?という会場も見られたこと。

6) ホテルの部屋が大きくてキレイだった。前に行った時の倍くらいあった。(但し、英語と中国語のみで日本語は一切通じないところだった)

7) 往復共に空港内のクラブで待ち時間をゆっくり過ごせたこと。(約1時間くらい)

(びっくりしたこと)

1) 長城はまだ、いたる所にゴミが捨ててあったが、北京は比較的きれいに感じた。特に天壇公園はゴミひとつなくゴミ箱も可燃と不燃の箱にわかれて数ヶ所に配置されていた。

2) 胡同では観光用三輪車に乗ったが数回渋滞で止まった。(10~15台ずつやりすぎすほどでした)

3) 手持ちの水を持ち歩く人が多かったがそのペットボトルを集める人も結構みかけた。

4) 北京の自転車が少なくなっていた。ガイドさんの話だと住居が郊外に移った人が多く通勤など自転車では間に合わなくなったためだと言っていました。

中国語との出会い

神山

英語など敵国の言葉を使うことが一切禁止されていた昭和20年(1945年)の4月に私は旧制の中学校に入学した。そして、その年の8月に終戦を迎えることになる。

やがて私が住んでいた北関東の田舎町にも進駐軍の影が色濃く迫ってきた。各所に英語の道路標識などが建てられ、ジープに乗った米兵がやってくるようになった。

鬼畜米英と教え込まれていたアメリカ兵を目の当たりにしてたじろいだ。やがて“Give me chocolate”と言って手を出すとチョコやガムがもらえることをおぼえた。NHKでは Come come every body how do you do and how are you … というテーマソングで始まる英会話のラジオ放送が人気を集めていた。

それからは外国語といえば英語一辺倒の時代となってきたのである。

時は流れて1980年ごろ私は本来の会社から横浜の某会社に出向して働いていた。横浜は中華街などがあるせいか中国系の人が多い。国大や神大などにも多数の中国人留学生が来て学んでいた。

そこで横浜ライオンズクラブの人たちが彼らを援助しようと関内周辺に留学生を先生とする中国語教室を各所に設けていた。そのころ中国語はまだマイナーな存在だったが熱心な若者たちが教室を埋めていた。

私が以前に勤めていた会社は有給休暇も満足に取れないくらいに厳しいところだった。だから海外旅行などと言うものには行けないのだとあきらめが先行していた。けれども出向先の会社は極めておおらかで社長が率先し、社員が交代で台湾旅行に行っていた。そのため私の初めての海外旅行は台湾となったのである。

台湾のガイドブックや会話集を買ってある程度勉強してから行って見たのが84年のこと、しかし行く先々で日本語が通じ、

その上、高齢者の方の話す日本語が正しく美しいのにはびっくりした。

この旅行を契機として中国語に興味を抱いた私は早速、先に書いたライオンズクラブ後援の中国語教室の入門クラスの門をたたいたのであった。

我々の先生は横浜国大の学生で上海出身の美人、日本語も流暢でわかりやすい授業だった。その先生は在学中にNHKのラジオ広東語会話の講師を務めていたくらいだから優秀な人だったのだと思う。授業では特にピンインや四声を厳しく指導され、今思い返すととても役に立っているようだ。

中国にとりつかれた私は、中国旅行だけで十数回、大都市から不便な田舎まで歩き回った。片言でも話したことが通じると中国語をやっている良かったと思えてくるものである。会社を辞めてからしばらくは中国語の学習と離れていたが、平塚市の広報で募集していたこの会に入れさせていただいた。中級クラスの老師は今の若山先生。松原公民館の教室は毎週30名を越す参加者で机を前向きに並べて3人掛けにしても座れないほどの盛況だった。

老師の話す中国語に、いちいち頷いている人が多いのにはびっくり、なんてレベルの高い教室なのだろうとビビッてしまったが後で考えると、総てを理解していたわけでもなく、先生と顔が合ったときに頷かなければどうもバツが悪いからと言うのが本音のようだ。

“中国語習ってんだって、すごいね！じゃーもうペラペラでしょう”なんて言われたことありませんか？ ところが我々の教室は「会話教室」ではなく「学ぶ会」なのです。外国語を学ぶ目的は人それぞれだと思いますが、やっぱり話せなくては、聞き取れなくてはという気がしてならないのです。皆さんはどのように思いますか。

北京オリンピックとマナー

いよいよ来年は北京でオリンピック(奥运会)が開催されます。いま中国では主会場の建設、選手村や周辺道路の整備など急ピッチで進められているようです。

こういったハード面はお金と時間をかければできることですが、思うようにいかないのが世界中から客人を迎える側の人の気質です。

2月の中ごろ北京一の繁華街、王府井で市民のマナー向上を目指す「列に並ぼうデー」の開会式典行われたそうです。

え！？いまさら何を言っているの？と思ってしまうのですが、このようなことをしなければならない事情があるのです。それは今まで彼らには並ぶ習慣が無かったのです。数年前のこと、我々一行は故宮に入るべく並んで待っていました。その列に見知らぬ男が割り込んできました。“不要加塞儿”(割り込みするな！)とどなったところすぐごとと出て行きました。「路上にタンを吐くな・ごみを捨てるな」「ところ構わずタバコを吸うな」などなど数え切れないスローガンが街中にあふれているそうです。

タクシーの「資質向上作戦」では運転手に対し「ニンニクの口臭や喫煙・茶髪・男性の長髪・女性のイヤリング」などを厳禁してイメージアップを目指しているそうです。

競技力では自信がありメダルをたくさん取っても、市民のマナーについては全く自信がないのが中国側の本音のようだ。

いつかの日本とのサッカー試合のように、日本のサポーターは隔離された状態でゲームを行い、試合終了後もアンフェアな応援団に囲まれて選手でさえ場外に出られなかったような事態が起きないことを祈るばかりである。

北京の目標「飲める水道」

日本ではどこの水道水でも飲むことができる。それなのにカルキ臭がするなどと言ってミネラルウォーターを買って飲んでいる人

がいる。贅沢なことだ。

中国の水道水はそのままでは飲むことができない。だからどこの家庭でも沸騰させてから飲用にしている。10数億の人達が飲む水を沸かすのだから膨大なエネルギーを必要とする。その燃料のほとんどは練炭が使われる。練炭と言われてもご存知ない方もおられるだろう。これは石炭の粉を直径20センチ程度の円筒形に練り固め、レンコンのような穴をあけたものである。これこそが二酸化炭素拡散の元凶であるとさえ言われている

さて本題に戻ろう。来年の五輪期間中には主会場などが集まる五輪公園内であれば直接飲めるようにしようと、水道設備の整備が進められているという。

飲める水道水を作るよりも各地で起きている水不足を解消するのが先であるような気がするのだが……

目方の単位

日本で買い物をするとき目方の単位はなにを使いますか。そう、グラムですね。100グラムとか1キロとかを使います。

中国ではどうでしょうか。中国での単位は斤(jīn)を使います。1斤は500グラム、その下の単位は両(liǎng)。1斤は10両だから1両は50グラムになります。

街を歩いていると果物などを売っている店がたくさんあります。ほとんどが値段を表示していませんが“苹果多少钱?”と尋ねると“八块”とか“十块”などの返事がかえってくる。これはリンゴ1個でもひと山の値段でもなく1斤の値段なのである。レストランで餃子や包子を注文するとどれだけ要るのかとその目方を聞かれる。中国人は主食を食べるのも重さで考えるのだ。中国へ行ったときレストランでまごつかないように今度家で餃子を作ったら1両でいくつくらいあるのかを量っておくことをお勧めする。